

2026 年頭挨拶

「高市総理の辞任を求める」

静岡県勤労者協議会連合会

会長 堀内 武治

新年あけましておめでとうございます。

県下各地の勤労者協議会の皆様には、ご健勝にて新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、2026年の新春、私たちは「高市総理ヤメロー」のシュプレヒコールでスタートしていかなければならない局面にあります。

せっかく創り上げた衆・参両院での与党過半数割れは、野党の混乱と「維新の会」の裏切りにより、私たちが思いもよらぬタカ派結集と高市内閣の成立となってしまいました。

高市総理就任3カ月、これが平和国家の首相かと目を疑う状況です。

第一はアジアでの会議帰国途中、日本に寄ったアメリカ・トランプ大統領との会談、米軍空母艦上での映像「トランプ大統領の片腕にぶらさがって大はしゃぎ」。まったく見てはいられませんでした。これが、アメリカに支配された日本の姿と改めて認識したところです。

第二は総理就任後、初めて臨んだ臨時国会党首討論「台湾有事が日本の存立危機事態になり得る」と言い切った首相、言い換えれば日本は「台湾有事には参戦する。」と、軽く言い切ったのです。日本の存亡にかかわる事、平和憲法の国「日本」の総理大臣として絶対認めるわけにはいきません。

第三は非核三原則にふれ『持たず、作らず、持ち込ませず』のうち「持ち込ませず」の改定を策していることです。日本人だけでも三百万を超える戦死者、世界で唯一の戦争核被爆国、おびただしい戦争犠牲者の上に立つ非核三原則はそんなに軽いものではないことを肝に銘ずるべきです。



私たちは2026年冒頭から高市政権の打倒をめざし、多くの仲間の皆さんと連帯し行動を起こさなければなりません。「高市総理ヤメロ」の声を、あらゆる場で発していきます。

勤労者協議会は「原則」を大切にしています。

今年も「絶対不戦」「絶対平和」の原則のもと、平和憲法を護り、豊かで明るいまちづくりを目指し、精いっぱい頑張ることを明らかにして、新年のご挨拶とします。

第14回勤労協東海北陸ブロック総会・ 交流会開催される

2025年11月23日～24日、富山市ゆーとりあ越中会館に於いて、2年ごとに開催される勤労協東海北陸ブロック総会・交流会が開催されました。参加県の静岡県・福井県・石川県・富山県の勤労協から50名が参加し、静岡県連からは10名が参加しました。本総会は富山県連が主催団体となりました。

総会は、主催県を代表し富山県連会長の酒井桂之氏から歓迎のあいさつを頂き、来賓として藤井富山市長、村石立憲民主党富山第1支部幹事長、島村社会民主党富山県連代表の皆さんから激励のあいさつを頂きました。

総会議案として経過報告、会計報告を承認し、今後の活動課題として以下の課題を取り組んでいくことを確認しました。



- ① 勤労協運動として人の集まる事業を取り組んでいこう
講演会・バーベキュー大会・納涼会・映画会など
- ② 市民団体との連携を深め行動に参加しよう
平和運動・環境団体・脱原発を目指す団体など
- ③ 勤労協推薦議員と連携し、地域住民の要求の前進を目指そう
- ④ 各地域勤労協内での交流を深め、他地域勤労協との情報交換や交流を取り組んでいこう
- ⑤ 交流を深める中で新しい仲間を拡大していこう



夕食は交流会として各県連の自己紹介などで楽しい一時を過ごしました。

2025年東海北陸ブロック役員体制

2025年11月～027年10月

ブロック会長	川崎 周一	(福井勤労協)
〃 副会長	橋本 勝六	(静岡勤労協)
〃 副会長	平田 和伸	(石川勤労協)
〃 事務局長	佐藤 宏美	(福井勤労協)

第 28 代高校生平和大使

2025 長崎派遣代表活動報告

広島研修報告

私たちは、第28代 高校生平和大使と2025 長崎派遣代表です。核兵器の廃絶と平和な世界の実現を求めるために、日々活動を行っております。右から、山下耀生(長崎派遣・静岡聖光学院高等学校1年)、水野可麗(高校生平和大使・不二聖心女子学院高等学校3年)、大塚ほなみ(長崎派遣・沼津市立沼津高等学校2年)です。



2025 年 6 月 14 日～15 日にかけて、1 泊 2 日で広島研修に行っていました。

1 日目は、被爆体験者である原田浩さんから、当時の戦下の状況のお話をうかが

うことから始まりました。「被爆された方は大勢いるのに、なぜ 100 人あまりしか語り継ぎ部がないのか。それはもうあの辛い出来事を思い出したくないから。」この言葉は、心に深く残りました。もう思い出したくもない、辛く苦しい経験を、未来までずっと語り継いでほしいと、今高校生に託して下さる。この思いを私達は決して無駄にしてはならないと、改めて感じました。原爆遺構巡りでは、原爆死没者慰霊碑に献花をし、平和公園付近の遺構巡りや、広島平和記念資料館で学びを深めました。特に私は、平和公園の中でも 1 段低い場所にある、「慈仙寺跡の墓石」が印象的でした。原爆投下前、現平和公園がある場所は中島地区と呼ばれており、人々の営みがありました。終戦後、復興のため盛り土がされましたが、墓石のある、1 段低い場所には、原爆投下以前の中島地区の人々の暮らしがあったことを思

い起こしてほしい、というメッセージに、胸が苦しくなりました。

2 日目には結団式が行われました。全国の高校生平和大使 24 名が決意表明を述べ、任命書をいただきました。



〈社説〉非核三原則 「国是」を 短慮で見直すことは許容できない

2025 年 11 月 19 日東京新聞

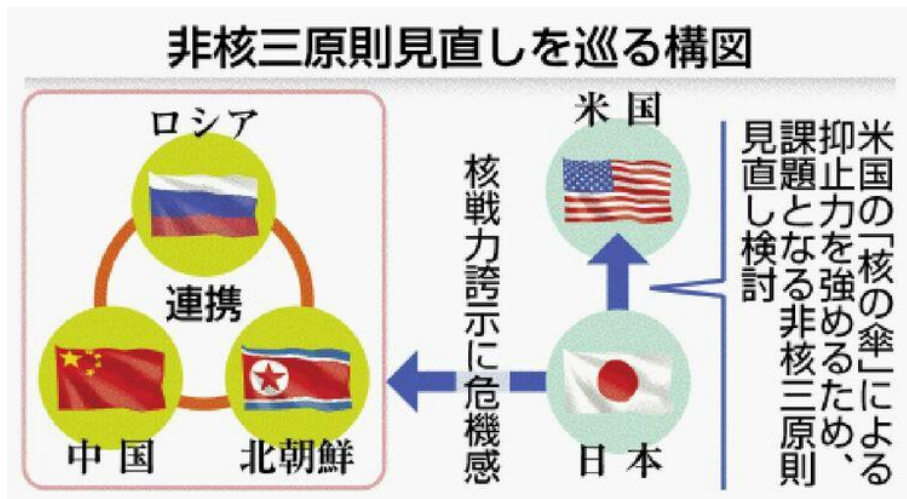
高市早苗政権が核兵器を「持たず、つくらず、持ち込ませず」の非核三原則の見直しを検討している。日本は唯一の戦争被爆国として非核三原則を国是に位置付け、核兵器の廃絶を目指す平和国家の礎にしてきた。時の政権の短慮で見直すことは許容できない。

非核三原則は 1967 年に当時の佐藤栄作首相が国会で表明し、累次の国会決議で「国是」として確立した。

日本は米国の「核の傘」の下にあるが、2022 年の国家安全保障戦略など安保 3 文書は「非核三原則を堅持するとの基本方針は今後も変わらない」とし、2025 年版の防衛白書も「国是としてこれを堅持している」と明記した。

高市首相は今国会で、安保 3 文書の改定方針を巡り、非核三原則を堅持するかどうか問われ「申し上げる段階ではない」と明言を避けた。自民党は週内にも 3 文書改定に向けた議論に着手し、三原則見直しも議題となる見通しだ。

首相は三原則のうち「持ち込ませず」の見直しを就任前から主張してきた。国会議員の持論と国家として積み重ねてきた原則とは重みが違うことを理解すべきだ。



勤労協も非核三原則を堅持

「持ち込ませず」を巡って 2010 年当時、民主党政権の岡田克也外相が、米国の核搭載艦の寄港を認めなければ日本の安全が守れない事態が生じた場合は「時の政権が命運を懸けて決断し、国民に説明する」と国会で表明した。高市政権もこの答弁を引き継ぐという。

ならば「持ち込ませず」をあえて見直す必要があるのか。米国の核戦力の主力は潜水艦に搭載する核弾頭であり、日本に寄港したり領海にいなければ抑止力が低下するとの理屈は説得力に乏しい。



非核三原則見直しは周辺国に核戦力強化の口実にされかねず、国際社会に核軍縮・廃絶を唱えてきた日本外交への信頼も損なう。

核兵器が 80 年間使われなかったのは核抑止の結果ではなく、広島・長崎の被爆者や遺族らが被爆の惨状を世界に訴え、核は使えない兵器との認識を広めたからだ。その延長線上に、核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) や日本原水爆被害者団体協議会 (被団協) のノーベル平和賞受賞がある。

高市政権が取り組むべきは非核三原則の見直しでなく、非核三原則を貫き、国際社会に向けて「核兵器のない世界」の実現を働きかけることにほかならない。

【横浜市で第62回護憲大会】

憲法を活かし人権輝かせ ～ 戦争と排外主義STOP！

社会新報 2025. 11. 14

護憲大会の開会総会には全国から1100人が参加した。（8日、横浜市の関内ホール）

「戦後80年 未来につなぐ平和憲法」をスローガンに掲げた「憲法理念の実現をめざす第62回護憲大会」が8日から3日間、神奈川県横浜市で開催された。フォーラム平和・人権・環境や地元実行委員会などでつくる大会実行委員会が主催し、初日の開会総会に1100人が参加した。自民党と日本維新の会の高市連立政権が、大軍拡と改憲、差別・排外主義、戦争への道を加速する中、参加者は危機感を共有化した。



総会で主催者を代表してあいさつした染裕之実行委員会委員長（平和フォーラム共同代表）は、「高市政権の発足によって日本政治は一気に右旋回した。

大軍拡と改憲へ大きく踏み込んだ高市政権と正面から対峙（たいじ）しよう」と訴えた。

一線超えた「存立危機事態」首相答弁

神奈川県実行委員会の福田護委員長（弁護士、社文法律センター神奈川支部）は、高市早苗首相が7日の衆院予算委で、台湾有事になれば集団的自衛権を行使可能な「存立危機事態になり得る」と答弁した問題について「ついに首相答弁として一線を越えた。日中両国は1972年の日中共同声明以来、『一つの中国』として台湾を中国の一部であると何度も確認してきた。国連加盟国でもない台湾の有事に日本が参戦することは中国への内政干渉で、国際法違反だ」と厳しく批判。

差別・排外主義と監視社会の次は戦争

社民党の福島みずほ党首（参院議員）が、連合や立憲民主党の代表と共に、来賓としてあいさつした。

福島党首は「戦争と差別排外主義は手を携えてやってくる。法務省の『不法滞在者ゼロプラン』によって、今年4～9月の間に2000人の外国人が強制送還され、子どもと親がばらばらにされた。外国人の人権を切り捨てれば、いつか自分の人権もないがしろにされる日が来る。人権はみなつながっている」と述べた上で、「市民を監視するスパイ防止法案を国会に提出させてはならない。差別排外主義と監視社会の次は戦争への道だ。そうさせないために、憲法を活（い）かし、人権を輝かせ、平和をつくっていかう」と呼びかけた。



続いて、「戦後日本は、どう人権を育んできたのか」をテーマにシンポジウムが開かれた。

コーディネーターを金子匡良法政大学教授、パネリストを山花郁夫衆院議員（立民）と阿久澤麻理子大阪公立大学教授、海渡双葉弁護士が務めた。

山花議員は「人権問題を立法的に解決していくことは不断の努力による『日本国憲法という未完のプロジェクト』だ」と、故・奥平康弘さんの言葉を引いて発言。阿久澤教授は「社会の少数者の人権を尊重するには、まず多数者が自らの立ち位置に気づくことが重要」と、また海渡弁護士は「スパイ防止法は、新たな戦前の再来で、秘密保護法の人権侵害をさらに悪化させる」と発言し、人権尊重の取り組みを強めていくことを確認した。

閉会総会で坂井市勤労協などに遠藤三郎賞

護憲大会3日目の10日は、横浜市教育会館で閉会総会が開催された。特別提起として、北海道

平和運動フォーラムの岡村孝一さんが幌延町の高レベル放射性廃棄物施設での深地層研究計画の早期終了と埋め戻しの要請や大間原発反対運動について報告。埼玉県平和運動センターの金子彰さんは川口市での排外主義団体によるクルド人への差別反対運動、強制送還に対する政府交渉の取り組みについて報告。沖縄県平和運動センターの幸喜愛さんは米軍基地反対運動について報告した。

今年の遠藤三郎賞は、映画会上映を通じて43年間にわたる反原発運動を展開してきた福井県の坂井市勤労者協議会と、長年にわたって毎月8日に戦争反対のチラシ配布活動を行なっている高知県の戦争への道を許さない女たちの会の2団体が受賞。賞状と記念品が授与された。(写真右)

最後に、「戦後80年未来につなぐ平和憲法」との大会アピールが提起され、会場の拍手で確認された。

なお、来年の護憲大会は福岡県で開催予定である。



柏崎刈羽再稼働容認めぐり「人間の鎖」 新潟知事に抗議「県民に信を」



県庁そばの信濃川沿いの遊歩道に並ぶ参加者=2025年11月25日午後0時20分、新潟市中央区新光町の県庁前、戸松康雄撮影

東京電力柏崎刈羽原発の再稼働をめぐり、11月25日、新潟県庁と県議会庁舎を取り囲む「人間の鎖」行動が行なわれた。県内外から約1200人（主催者発表）が集まった。花角英世知事が再稼働について県議会に判断を求める見通しが強まる中、市民たちは「県民の意思を無視した判断は許さない」として急きょ行動を企画した。



東電「信頼確保」皆無

「人間の鎖」を主催した柏崎刈羽原発再稼働の是非を考える新潟県民ネットワーク（以下、県民ネット）は、知事が公約した「県民に信を問う」姿勢を放棄したとして強く抗議。

事前集会は県庁隣の自治会館で開催され、参加者が会場いっぱいにあふれた。集会の冒頭、県民ネットの片岡豊世話人は、11月21日夕に花角知事が下した再稼働容認と進退を「県議会に諮る」との判断について、「姑息（こそく）かつ実に情けない決定で、県民の意向を見事に無視したもの」と厳しく批判し、「皆さん、怒りの声を共に上げよう」と呼びかけた。また片岡氏は東電について「繰り返される不祥事から、事業者に求められる『信頼の確保』にはほど遠い」と指摘すると、会場に詰めかけた参加者たちは深くうなずいた。



県民調査つまみ食い

続いて、県民ネット事務局の中山均新潟市議は、知事の判断に至ったプロセスの不透明さを指摘し、「知事は、県民意識調査の都合のよい部分だけをつまみ食いし、再稼働容認の根拠にした」と問題視した。また、中山市議は「規制委員会の審査は安全性を担保するものではなく、適合性を確認するにすぎない。技術委員会でも耐震性など積み残し課題が残ったまま」と強調した。集会では、新潟県関係の国会議員7人から寄せられたメッセージが資料として配布されたほか、原子力市民委員会、浜岡原発再稼働を許さないひまわり集会実行委員会など、県外からの応援メッセージも紹介された。参加した県議7人も紹介されると、会場からは大きな拍手が送られた。参加者はその後、県庁周辺へ移動し、寒風が吹く中、ゆっくりと手をつないで「人間の鎖」を完成させた。途切れることなくつながった長い列は県庁を1周して約1kmに達し、「知事は約束を守れ」「県民に信を問え」「県議会だけで決めるな」と声を上げた。

最初に、県民ネットの大賀あや子世話人が、「人間の鎖をつなげることができた。今後も県民の思いを示す行動を続けたい」とあいさつした。

その後、県内外の参加者が次々にマイクを握った。柏崎市から参加した池田千賀子前県議は7年前、花角知事が初当選した際の公約「職を賭して県民に信を問う」に触れ、「今回の判断はその約束を踏みにじるものだ」と批判し、「県議会だけで決めれば、県民の意思が反映されないまま『再稼働容認』とされてしまう。決して許せない」と怒りの声を上げた。



半端な条件付き容認

県民ネットワーク世話人の水内基成弁護士は、「知事の判断は、6・7号機の条件付き容認という中途半端なものだ」と問題視した。知事が再稼働の条件として挙げた避難道路整備と東京電力をチェックする機関が実現していないと指摘し、「東電への不信が県民の7割に達する状況下、再稼働を容認する判断をしたこと

に心から失望した」と述べた。また『安全対策への理解度が上がれば再稼働に賛成する人も増える』という知事の発言は、反対派県民に理解力がないと言うに等しい」と批判した。県民ネットは、今後について「12月県議会の議論を市民の目でしっかりと監視し、必要に応じてさらなる行動を起こす」としている。(2025年11月26日 社会新報)

除夜の鐘。初詣一他

除夜の鐘（じょやのかね）は、大晦日の夜に寺院で鳴らされる鐘で、1年間の煩惱を祓い、新しい年を清らかな心で迎えるための重要な儀式です。

除夜の鐘の意味

除夜の鐘は、古い年を除き、新しい年を迎える夜を指す「除夜」に行われる行事です。この鐘の音は、1年間の感謝を表し、心を清めるためのものとされています。多くの寺院では、鐘が108回鳴らされることが一般的で、この回数には仏教の教えに基づく深い意味があります。108は人間の煩惱の数とされ、鐘の音を聞くことでそれらを祓うと信じられています。

歴史と由歴来

除夜の鐘の起源は古く、中国の宋の時代に始まったとされ、日本には鎌倉時代に伝わったと言われています。室町時代には仏教行事として一般化し、江戸時代には多くの寺院で行われるようになりました。鐘の音は、仏様の声を連想させ、聴く者に悟りに至る功德があるとされています。

実施方法



除夜の鐘は、大晦日の夜に行われ、通常は年越しの瞬間に合わせて鳴らされます。鐘をつく際には、参加者が順番に鐘をつくことができる寺院もあり、一般の人々もこの儀式に参加することができます。鐘の音は、厳かで心に響くものであり、年の終わりを感じさせる重要な風物詩となっています。このように、除夜の鐘は日本の文化において非常に重要な行事であり、心を清め、新しい年を迎えるための大切な儀式です。



初詣

初詣（はつもうで）とは、新年を迎えて初めて神社やお寺に参拝し、1年の健康や幸せを祈る日本の伝統的な風習です。

初詣の意味と目的

初詣は、新しい年が始まった際に、神様や仏様に感謝の気持ちを伝え、無事な一年を祈願する行事です。多くの人々が元旦（1月1日）に行くことが一般的ですが、1月3日までに行けば初詣と考えられています。この風習は、昔から「年籠り」と呼ばれる習慣に由来し、家長が神社に籠もって新年の豊作や安全を祈願していたことが起源とされています。

参拝の方法

1. 神社やお寺に行く： 近くの神社やお寺を訪れます。神社は神道に基づき、日本の神々を祀る場所

であり、お寺は仏教に基づき仏様を祀る場所です。

2. 参拝の作法：神社では、鳥居をくぐる前に軽く一礼し、手水舎で手と口を清めます。拝殿では「二拝二拍手一拝」の作法で参拝します。
3. お賽銭を納める：お賽銭を納め、静かに合掌して祈ります。おみくじを引くことも楽しみの一つです。

初詣の文化的な重要性

初詣は、日本の文化において非常に重要な行事であり、1年の始まりに神様や仏様にお祈りをする事で、その年が健康で幸せになると信じられています。多くの人々がこの伝統を大切にし、家族や友人と共に参拝することで、絆を深める機会ともなっています。

このように、初詣は日本の文化や伝統を体現する重要な行事であり、毎年多くの人々が参加しています。



鏡餅を飾るのはなぜ？

元旦には年神様（としがみさま）という神様が、一年の幸福をもたらすために家庭にやってくるとされています。その年神様の依り代（よりしろ）（※1）となるのが鏡餅。一連のお正月行事とは、その年神様を迎え入れてお祝いし、たくさんの幸せを授けてもらうためのものなのです。（※1）神霊が依りつく対象物のこと

◆なぜ「鏡餅」というの？

古来より、「鏡」には魂が宿るものだと信じられてきました。鏡餅の餅が丸いのは、鏡のかたち由来する、あるいは人間の心臓の形を表している、と言われています。また、大小2つの餅を重ねているのは<円満に年を重ねる><縁起がいい>という意味が込められています。

そして、日本人にとって「稲」は特別なものでした。稲は一年という長い月日と労力をかけて育てられます。だからこそ、毎年一回ずつ収穫される新しいお米を食べることで、生命力を得られるとされてきました。そんなお米をついて固めた「餅」は、生命力を倍増させるものとして特に重要視されてきたのです。

このように、新しい年に良い縁を運んでくる年神様に入っていたいただくための相応しい器（依り代）として「鏡餅」が親しまれてきました。



◆いつから始まった？

鏡餅には「歯固め」という意味があり、鏡開きは「歯固めの儀（式）」に由来しています。歯固めの儀とは、長寿を祈願して正月に鏡餅などの固いもの（容易に噛み切れないもの）を食べる習わしのこと。年齢の「齢」にも「歯」という字が使われており、年を重ねるには丈夫な歯が大切だと古くから考えられてきました。

正月行事は古い一年に区切りをつけて一度リセットして、新たな年を始める節目になるのです。

◆飾る時期は？

鏡餅を飾るタイミングは、12月28日までに飾るか、遅くとも30日には飾るものとされています。12月29日は「9」が苦しみを表すとして、31日は一夜飾りになるとして、一部の地域を除いて避けられています。

1月11日、または松の内とされる15日まで飾られたあと、供えていた鏡餅を下げ、鏡開きをします。

（文責：秋山一 静岡県勤協連事務局長）

各地区活動報告

☆掛川市勤労協

福祉施設への雑巾寄贈 今年で16回目



毎年恒例の手縫い雑巾の寄贈を、今年も掛川市の2カ所の福祉施設に対して行いました。

鈴木久裕会長、笹本義雄事務局長ら役員3人が10月16日、えいせい掛川介護老人保健施設と特別養護老人ホーム掛川福祉ノ郷（いずれも上西郷）を訪ねて、タオルで作った雑巾150枚ずつを職員に手渡しました。両施設とも「掃除などでたくさんのお数を必要とするので、とても助かります」と喜んで下さいました。

2010年に始まったこの支援活動は今回で16回目。寄贈先は延べ28施設に上っています。

会長雑感

こども・子育て支援金制度への疑問

こども・子育て支援金制度で、こどもは増えるのでしょうか？

少子化対策が国の大きな政策課題となる中、こども・子育て支援金制度が来年度から本格的に始まります。

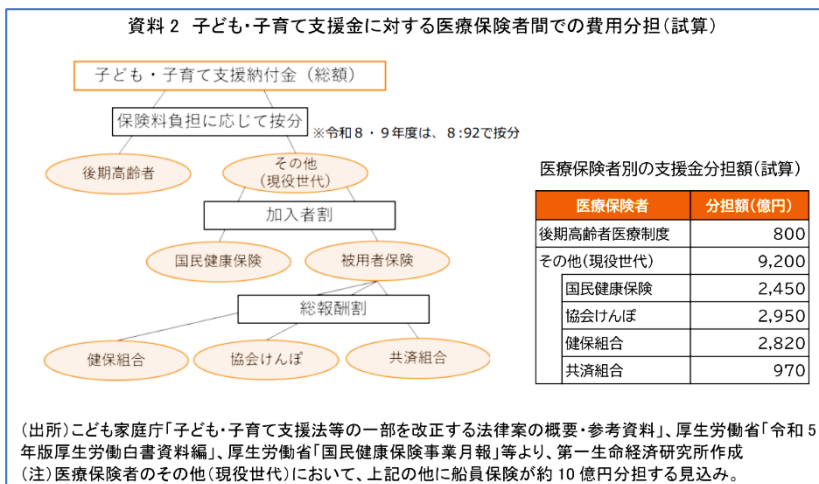
その財源として、来年度から後期高齢者医療保険はじめ各医療保険制度から被保険者の負担増が予定されています。医療保険料として納めたお金が子育て支援関連の制度に使われること、なんともしっくりしない、むしろ「筋違いだろ!」と言いたくなりますね。

そもそも、支援制度を拡充すれば出産が増えるのでしょうか？もちろん出産時の費用負担をなくすることなどは必要なのではけれども。

いま、男女を問わず非婚化が進んでいます。特に非正規で収入が少ない男性の未婚率は非常に高くなっているそうです。最低賃金の水準向上とあわせ、非正規の正規化を進めたり、派遣可能業種を見直し縮小するなど、人間的に持続・再生産可能な雇用制度にしていくことこそ先決ではないかと思うところです。

(掛川市勤労者協議会会長 鈴木久裕)

※枠内イラストは第一生命経済研究所 HP「子ども・子育て支援金」は一体誰がいくら負担するのか?」より転載/編集)



提言 労働者の安心・安全を目指して

深秋の季節となり、肌寒さを感じる日々が続いています。季節柄、共に健康に留意していきましょう。さて、町中を歩くと様々な事象が見え、感じ取れます。その中で企業等へ勤める方々の動きを見ると、企業は人員不足を解消するために自動化を推し進め、設備投資に巨額の資金を注ぎ込んでいます。一方、労務の簡素化を図ろうと下請けを一本化する動きも散見され、労働者が生活等に戸惑う日々が到来しました。

我が勤労者協議会もこうした労働者の声を吸収し、公的機関や各団体へ訴える等々の活動を積極的に行って、労働者の安心安全を目指したいものです。

ぜひ皆さんもこの目的に賛同いただきたく存じます。

(掛川市勤労協 一役員)

勤協グラウンドゴルフ大会の結果



第1回（5月24日）

①松浦啓一②澤述史③清水千津子

第2回（7月12日）

①石山涼子②平野啓之③鈴木衛

第3回（9月27日）

① 杉山重雄②加藤勝男③榛村勝

（掛川勤協 NEWS 第135号より）

☆三豊市勤労協（香川県） 楽しく有意義な研修会でした

11月15日、徳島県方面に日帰り研修をしました。徳島の藍染文化の勉強として藍染体験をしました。世界に一枚しかないオリジナルの素晴らしい藍染のハンカチの出来上がりに参加者感激。美馬市・脇町の「うだつの街」巡りは現地ガイドの極めて詳しく適格な説明に江戸時代からの徳島藍文化のすごさ、江戸から明治・大正の藍染物流の歴史、なかには間口が40メートルはあろうかの豪邸もあり「うだつ」をしつらえた歴史的

建造物が立ち並ぶ街並みに圧巻されました。



また阿波市・阿波町ではロッキー山脈・イタリアのチロルと並ぶ「阿波の土柱」には間近に見える自然の造形にすごさを感じました。しかし近年の豪雨などもありかなり崩壊気味の「土柱」に40年前や半世紀前に見たものと同くべて見劣りがして少しガッカリもしました。土柱を見る展望台に100年前・70年前・40年前・20年前の写真があり昔はこんなかったと残念がる仲間もいました。とにもかくにも好天にめぐまれ最高の研修会に参加者一同満足しました。



コラム 高市政権は大変危険！

10月21日に誕生した高市政権は超保守主義内閣です。人事も政治とカネの問題を何の反省も無く過去のことのような扱いの傍若無人ぶり。就任後間もない外交舞台ではトランプに媚びを売り、大統領専用ヘリに乗せてもらい米軍の原子力戦艦の艦上でトランプとはしゃぐ姿に日本の誇りも投げ捨てた「アワレ」な姿さえ感じたのは私だけではないと思われます。また11月7日の衆議院予算委員会での「台湾有事は存立危機事態」発言は、2015年に制定された集団的自衛権の行使を認める安保法制により中国に対し「ケンカ」を売ったに等しい大変な暴言です。1972年の田中・大平時代から積み重ねてきた日中友好関係を損ない、著しく国益に反するものです。予算面でも軍事費のGDP比率2%を今年度、前倒し実施をアメリカに約束、その一方で国民生活の基本である福祉教育予算は切り詰める反国民的な内閣です。この反動極まりない内閣に目新しさだけで騙されてはいけません。

（11月17日 篠原 清 記）

（三豊市勤労協ニュース No85 2025/11/17 発行 より）

